

第 6 回 九頭竜川自然再生計画検討会

議事骨子

日 時 : 平成 20 年 10 月 24 日 (金) 14:00 ~ 16:00

場 所 : 福井市地域交流プラザ 研修室 607

1. 議事

事務局より、水際環境保全再生（九頭竜川下流域）について、整備目標の設定、段階的整備計画、モニタリング計画の説明がありました。

また、九頭竜川の各再生事業における整備目標の設定、段階的整備計画、モニタリング計画について、各構成員から以下のような意見がありました。

水際環境保全再生に関するご意見

- ・高水敷の水田をなくすのであれば、高水敷を湿地環境にしていくような方向性が必要ではないか。
- ・カエル等の両生類の生息環境を保全するのであれば、大型の魚類が侵入しないようなわんどや水田の水路に年中水が張られているような環境等が必要である。
- ・水際利用生物種の生息域拡大についての指標としてチュウヒなどの猛禽類を加えるとよいのではないか。
- ・マコモについては常時流れがあるような場所での生育は難しく、土壌としては砂泥質の方が良好な環境となると思われる。
- ・良好なマコモ生育箇所における土壌を調査等により把握してはどうか。
- ・日常モニタリングにおける河川巡視等で、河川の汚染状況や粗大ごみの分布等も調査して情報提供してもらえるとありがたい。
- ・下流域の水際ではアレチウリやオオブタクサ等の外来植物の侵入も見られるため、河川から何 m までは耕作をしない等の制限を設けてはどうか。
- ・工事実施後のモニタリング調査による整備効果の確認を行う際には、工事前後の状況の比較が必要であるが、局所的に行う工事の実施箇所における工事前の現状調査は行われているのか。

基本的には水辺の国勢調査の成果があるが、対象箇所における鳥類や植生等の調査も実施しているという状況である。

砂礫河原再生に関するご意見

- ・浮き石の存在が底質として非常に重要である。
- ・砂礫河原を再生するため、砂州上に密生している樹木を間引くという整備も実施したらいいのではないか。

2. 事務連絡等

事務局より、今後の検討会の開催予定及び討議内容についてお知らせがありました。